

■堺利彦 社会主義者。社会主義思想の平易な普及者として、運動の優れた組織者として、大きな足跡を遺した。

さかいとしひこ

初の日刊新聞1870＝ 豊前国(福岡県)豊津で、貧乏士族の三男に生まれる。

明治6年政変 1873＝ 3歳：

琉球処分・・・1879＝ 9歳：

明治14年政変1881＝11歳：

自由民権思想の影響を受けて育ち、

帝国大学始・・・1886＝16歳：豊津中学校を首席で卒業して、

国民之友始・・・1887＝17歳：第一高等中学校に入学するが、

初の対等条約1888＝18歳：放蕩の末に除籍処分となる。

帝国憲法発布1889＝19歳：長兄が急死したため帰郷し、老父母を連れて大阪に出、

小学校教員や新聞記者生活を転々としながら、生活苦と闘うかわら、  
実兄本吉欠伸の感化で{浪花文学会}に参加、次々と小説を書いて森鷗外・尾崎紅葉らに認められるとともに、  
軽妙洒脱な文章術を磨き、

日清戦争始・・・1894＝24歳：

両親の死去後、

白馬会・・・1896＝26歳：堀美知子(大杉栄の妻の姉)と結婚。{福岡日日新聞}に入社するも、

八幡製鉄始・・・1897＝27歳：退社し、再び上京。毛利家編集所で同郷の先輩末松謙澄の主宰する「防長回天史」の編集に従い、歴史への

関心を養う一方、山路愛山らと交わり、

Bushidou・・・1899＝29歳：「防長回天史」終結とともに、念願の{万朝報}記者となる。

家庭や生活の改良、言文一致体の普及に健筆を振るう。

田中正造直訴1901＝31歳：\*社主黒岩涙香、同僚の内村鑑三、幸徳秋水らと“理想団”を結成、社会正義の実現を説く。「言文一致普通文

」「家庭の新風味」を刊行、文名が高まる。日露開戦の前に社会主義の立場から非戦論を展開するが、

日比谷公園・・・1903＝33歳：同紙が主戦論に転ずると幸徳とともに退社。平民社を興し、“自由、平等、博愛”を掲げた週刊{平民新聞}

を発刊、発行兼編集人となる。

日露戦争始・・・1904＝34歳：平民社創立の1周年には幸徳との共訳による「共産党宣言」を掲載。同紙筆禍の責を負い入獄。

同紙廃刊後も{直言}や{光}によって運動を継続し、

日露戦争終・・・1905＝35歳：

満鉄発足・・・1906＝36歳：\*日本社会党を結成し評議員となり、{社会主義研究}を創刊。同党が議会政策派と直接行動派の対立を招いた際には中間的な立場から両者の仲介に努めるなど、運動の組織者としての優れた資質を発揮。その後、幸徳と行動をともにするが、その立場はつねに科学的社会主義の確立という日本の社会主義運動の中心的な位置を占め続ける。

アヲキ創刊・・・1908＝38歳：赤旗事件で2年の刑を受けて入獄、結果的に大逆事件の難を免れる。

韓国併合・・・1910＝40歳：出獄、{壳文社}を設立。残存の同志を糾合して社会主義運動の“冬の時代”をしのぎ、生活の確保と運動の

持続を図る。

明治天皇没・・・1912＝42歳：

第一次大戦始1914＝44歳：創刊した{へちまの花}は戯文に満ちつつ抵抗精神を随所に含んだ軽雑誌として、

21ヶ条要求・・・1915＝45歳：\*ついで“小きき旗上”として再出発した{新社会}は地道な社会主義思想の紹介や研究を行う雑誌として、ともに堺の編集ぶりがきわだち、“冬の時代”下に光彩を放つ。

一方、普選運動や労働運動に大きな期待を寄せ、

ロシア革命・・・1917＝47歳：衆議院議員選挙に立候補するなど、みずからも積極的にかかわり、運動の逼塞状況を打破しようとした活動も注目される。さらに{新社会}でレーニンを初めて紹介したり、ボリシェビズムの本質をもっと早く理解するなど理論面で卓越していたばかりでなく、マルクス主義思想の啓蒙普及の点でもその平易な文章により大きな貢献をなした。

大暴落・・・1920＝50歳：日本社会主義同盟に参加。

原敬首相暗殺1921＝51歳：

水平社結成・・・1922＝52歳：日本共産党創立では初代委員長となるが、

護憲三派圧勝1924＝54歳：

山川均らと{労農}を創刊、社会民主主義左派の立場をとる。

金融恐慌・・・1927＝57歳：第1次共産党事件後、同党から離れ、無産大衆党の結成に参加、合同後の日本大衆党で中央委員となり、

共産党事件・・・1928＝58歳：東京市会議員選挙では牛込区から最高点で当選。

世界恐慌・・・1929＝59歳：

最晩年まで無産勢力の結集に努め、

満州事変・・・1931＝61歳：\*満州事変勃発に、全国労農大衆党の対支出兵反対闘争委員会の委員長として反戦平和を訴え続けたが、

五一五事件・・・1932＝62歳：発狂し、家庭内暴力を起して青山脳病院に入院、

国際連盟脱退1933＝63歳：脳溢血で\_没した。